

「平成27年度横浜市学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。

調査の目的と活用

本市では、毎年、市立の全小中学校の児童生徒約26万人を対象に、学力調査と生活・学習意識調査を行っています。この調査の結果を、児童生徒・保護者と学校で共有し、児童生徒の学力向上や教員の授業改善等に役立てます。また、教育委員会では市の教育施策や学校への支援に活用していきます。

調査対象	小学校1・2年	小学校3～6年	中学校1・2年	中学校3年
調査実施日	平成28年2月4・5日		平成28年2月24・25日	平成27年11月5・6日
調査教科	国語、算数 (2教科)	国語、社会、算数、理科 (4教科)	国語、社会、数学、理科、外国語 (5教科)	

○児童生徒のもとには解答用紙とともに「自己確認票」と「調査結果シート」を、学校には市全体の調査結果をまとめた「報告書」と学校別の「分析チャート」を配付しました。

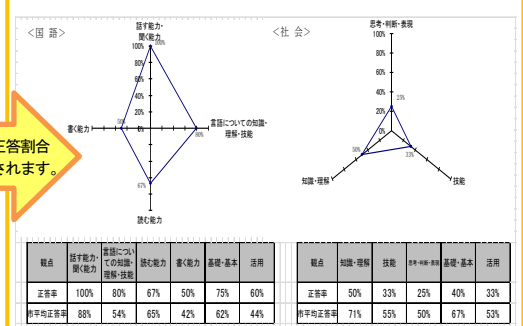
【資料1】「自己確認票」(例：中3国語)

基礎・基本活用	問題番号	出題のねらい	観点	難易度	解答状況		備考(正答)
					記入した解答	○×	
基礎・基本	13	小学4年・小学5年配当漢字が書ける。	言語についての知識・理解・技能	★★		○	功績
基礎・基本	14	動詞の活用形について理解している。	言語についての知識・理解・技能	★★★	2	○	2
基礎・基本	15	言葉の単位(単語)について理解している。	言語についての知識・理解・技能	★★★	4	×	3
基礎・基本	16	品詞の種類について理解している。	言語についての知識・理解・技能	★★★	1	○	1

話す能力・聞く能力	言語についての知識・理解・技能	読む能力	書く能力
100%	80%	67%	50%
基礎・基本		活用	
75%		60%	
年	組	番	
氏名			

「自己確認票」には、解答とその正誤(○×)、問題の難易度(★)、観点ごとの正答割合(%)等が一覧となって表されています。

【資料2】「調査結果シート」(例：中3国語・社会)



「調査結果シート」には、教科別に観点ごとの正答割合(%)が、わかりやすく図表で表されています。

横浜市学力・学習状況調査の結果

児童生徒・保護者 各教科の学習内容の理解や観点ごとの力を振り返り、何ができていて何が課題かをつかみます。(生徒・保護者へ配付。【資料1】【資料2】参照)

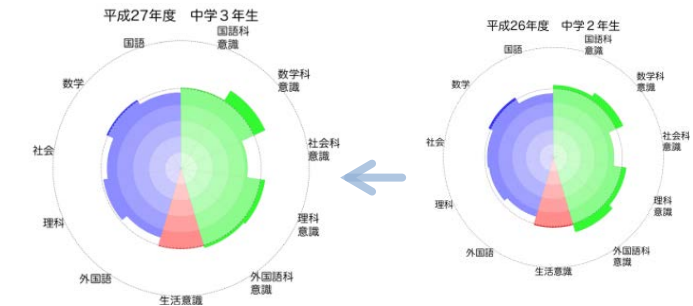
説明

指導・支援

学校 学校別の「分析チャート」から経年の変化傾向を捉えるなどして、学校ごとに特徴や課題をつかみます。(【資料3】参照)

授業改善をはじめとした教育課程の見直しなど、学校の運営改善に反映させます。(【資料4】参照)

【資料3】A中学校・3年(27年度)と2年(26年度)の分析チャート



「分析チャート」の変化から、前年度と比べて伸びている点や課題となる点を捉えることができます。また、学力面だけでなく生活面の調査結果についても、学校だよりやホームページ等で発信します。保護者や地域の方々とも情報を共有し、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てます。

【資料4】小中合同授業研究会の様子



学校内のみならず、同じブロックの小中学校が合同で研究授業や協議会を開催し、地域の子どものための課題を共有します。児童生徒へのよりよい指導・支援を目指します。

支援

教育委員会 市の教育施策に反映させます。

今回の調査の結果から

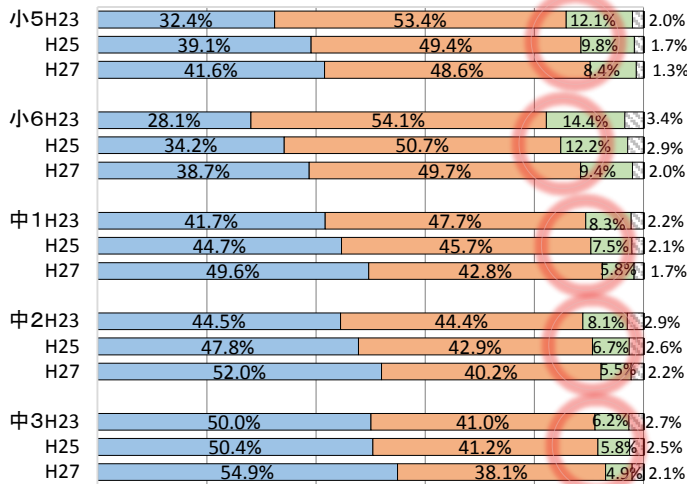
1 知識・技能は定着 習得した知識・技能の活用に課題

【資料5】「基礎・基本問題」、「活用問題」の平均正答率(%) [例：小学6年生・中学3年生]
 ※基…「基礎・基本問題」 活…知識や技能を活用して解答する「活用問題」

教科	小学6年生								中学3年生									
	国語		社会		算数		理科		国語		社会		数学		理科		外国語	
基礎・基本/活用	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活
平成27年度	74	48	75	63	72	44	78	50	62	44	67	53	70	50	64	39	57	19

2 学校のきまりを守る児童生徒の増加

【資料6】「学校のきまりを守っていますか。」に対する回答
 ○小5～中3の平成23～27年度における生活意識の変化



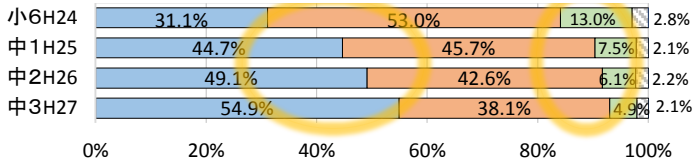
- 守っている
- どちらかといえば、守っている
- どちらかといえば、守っていない
- 守っていない
- 無回答

生活意識調査から今日の子どもたちの様子も見えてきます。

23・25年度に比べて27年度の肯定的回答(※1)の増加は、社会性や自主性が育まれてきたことによると考えられます。これは、特別活動(学級活動や児童会・生徒会活動等)の充実、また、小中学校の連携が進んだことによる学校間での緊密な情報交換や指導方針の確認、共通理解など、複数の取組が実を結んだ結果だと考えられます。これからも児童生徒の規範意識の高まりやよりよい集団づくり・人間関係づくりに向けて、丁寧な指導を進めていきます。

(※1)肯定的回答とは、「守っている」「どちらかといえば守っている」を合わせた回答。

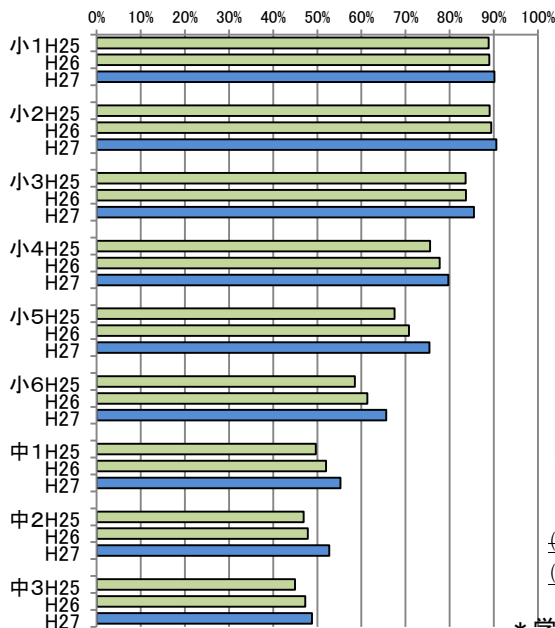
○平成24年度の小6が、中3になるまでの4年間の意識の推移



- 守っている
- どちらかといえば、守っている
- どちらかといえば、守っていない
- 守っていない
- 無回答

3 学校図書館利用への関心の高まり

【資料7】「学校図書館に行くことが好きですか。」に対する回答



学校図書館へ行くことに肯定的回答(※2)をする児童生徒の割合は、いずれの学年においても調査を開始した25年度から毎年増加しています。また、図書の出借冊数については、25年度から27年度までの2年間で、1.7倍に増加しているという調査結果(※3)が出ています。25年度から学校司書配置が始まり、学校図書館の充実が進んだことによると考えられます。

28年度に学校司書が全校配置されます。今後も、学校図書館を活用した授業や読書活動を位置付けた授業の推進を図っていきます。

学校図書館が充実し、児童生徒の読書意欲、学習意欲のさらなる向上が期待されます。

(※2)肯定的回答とは、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた回答。

(※3)調査結果は、学校司書の第一期配置校における25年度と27年度の図書貸出数調査から。

* 学校に配付する「報告書」は、市民情報センターで閲覧できます。

お問合せ先

教育委員会事務局指導部指導主事室長

宮城 篤

Tel 045-671-3723